オオイタ デジタルブック OITA DIGIAL BOOK

四十 40 FORTY

昭和四十年生まれの40人の40歳

淡居　誠

はじめに。

人生の折り返し、不惑、自分の顔に責任を持つ歳。
様々な表現をされる通り、４０歳という年齢はその人の生き方が定まり、形として見えてくる頃なのかもしれません。

東京オリンピックは知らないけれど
大阪万博は何となく憶えている。
就職活動の頃はバブルの真っ最中だった。

そんな、日本が一番元気だった高度成長期の昭和４０年に生まれた子供たちが２００５年に４０歳になりました。

同じ年に生まれた者として、他のみんながどんな時間を過ごして、どんな大人になったのか。
その姿を撮影することで自分自身の今までも再確認してみたいと考え、４０人の４０歳を訪ねて写真に収めました。

何も深いテーマや主張のある写真ではありません。
ただ、写っている人の生き方の一端を写真から感じ取ってもらえたなら、それだけで充分だと思っています。

どうぞ、ごゆっくりご覧下さい。

久々宮　克也

昭和４０年４月３日生

市職員

オフロードから７５０ＣＣまで６台のバイクを持っている。夜、ガレージでバイクの整備をしている時が一番幸せ。

甲斐　和美

昭和４０年６月１０日生

中学校教諭

学校では国語を教えている。
家庭も楽しいし仕事もやりがいがある。
毎日が充実していて自分は幸せだと思う。

大杉　天伸・晴美
昭和４０年１１月１日・４月２０日生
「いとしや・大分店」店主

中学の同級生夫婦は結婚して１６年になる。
９年前にオープンした店を２人で協力しながら経営する。

一丸　淳司

昭和４０年５月１７日生

県職員

子どもの頃は病弱だったので医者になるのが夢だった。今一番の楽しみは、ゆっくりと音楽を聴く事。

大間　映子
昭和４０年２月２７日生
保育士

子どもの頃に良い先生に出会った影響が大きい。自分もそんな先生になりたいと思い、この仕事を選んだ。

塩塚　隆生

昭和４０年９月４日生

「塩塚隆生アトリエ」代表

子どもの頃はプラモデル作りが得意で、大工さんになりたかった。アトリエを設立して１１年、死ぬ間際まで建築の仕事をしていたいと思う。

鈴山　真紀子
昭和４０年７月２５日生
アロマセラピスト

アロマテラピーに取り組み始めて１２年目。
店に来る人にだけでなく、教室を開いたり学校にも講習に行くなど、多くの人にアロマテラピーを広めている。

古賀　孝博

昭和４０年２月４日生

クレーン運転手

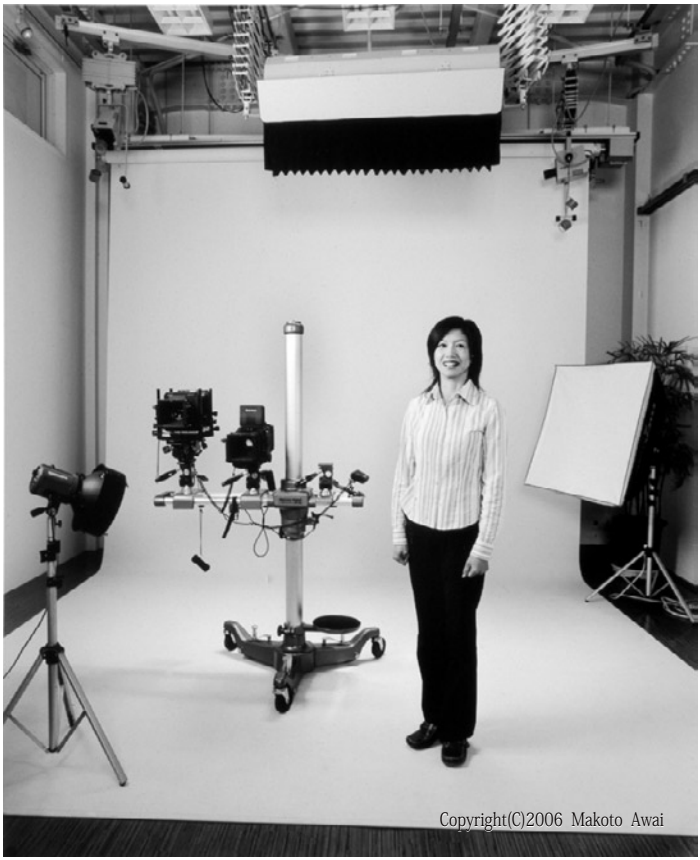
造船所でクレーンの仕事を始めて７年。
休みの日には魚釣りをして遊ぶ。

古川　千恵子
昭和４０年６月１３日生
歯科衛生士

歯科衛生士として１８年。そのうちの１３年を、
この歯科医院で過ごした。趣味は温泉と旅行。

川元　靖彦
昭和４０年5月２６日生
家具メーカー

子どもの頃から絵を描いたりする事が好きだった。今は定番家具の製造が多いが、今後は個人向けのオーダー家具の仕事を増やしていきたい。

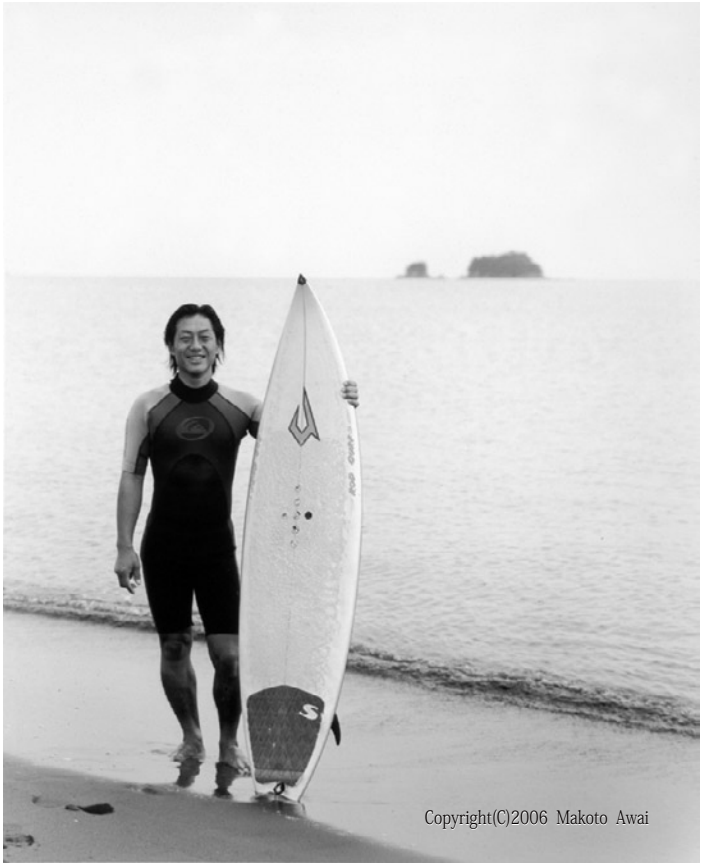


霜野　香
昭和４０年１２月１４日生
（有）シモノ写真スタジオ

夫の写真スタジオの手伝いをしながら、未就学の子どもと母親をサポートするボランティア活動にも参加。結婚してから自分の考えを明確に持ち、行動に移せるようになった。

高山　貴美子
昭和４０年１０月２２日生
主婦

１ヵ月後に３人目の子どもを出産の予定。
３年前にアウトドアに関するホームページを
開設、ネットを通じて多くの人と知り合った。



森上　幸生
昭和４０年７月２０日生
自営業

３年前に故郷に帰ってきた。サーフィン歴は２４年で、週に一度は蒲江や日向の海でサーフィンをする。

河野　展善

昭和４０年１２月８日生

会社員

４人の子どもの父親。会社ではバイヤーとして海外に買い付けに行く事も多い。今年、念願のマイホームを建てた。

下川　さち
昭和４０年１月１０日生
無職

ＣＭディレクターとして制作会社に１５年勤務。
その後ガーデンデザイナーとなったが、１ヵ月後
に控えた結婚のため、一旦仕事を辞めた。

鍵野　宝寿

昭和４０年９月２日生

カフェ「Mellow」オーナー

カフェの他にも、クラブのイベントディレクターやプロデュース、民族楽器でのバンド活動など多方面で活動する。「仕事も家庭も犠牲にせず、やりたい事をやる」のがモットー。

川野　泰斉

昭和４０年８月２７日生

天徳寺２５代住職

父親は先代の住職。大学４年の時に後を継ぎ僧侶になることを決めた。住職になって３年、まだまだ修行中。

佐藤　昭子
昭和４０年２月２６日生
ハウスイチゴ栽培

２年前に夫が会社を辞めてイチゴ栽培を始めた。それまでは専業主婦だったが、夫を手伝うため、ハウスで一緒にイチゴを作っている。

横山　哲史

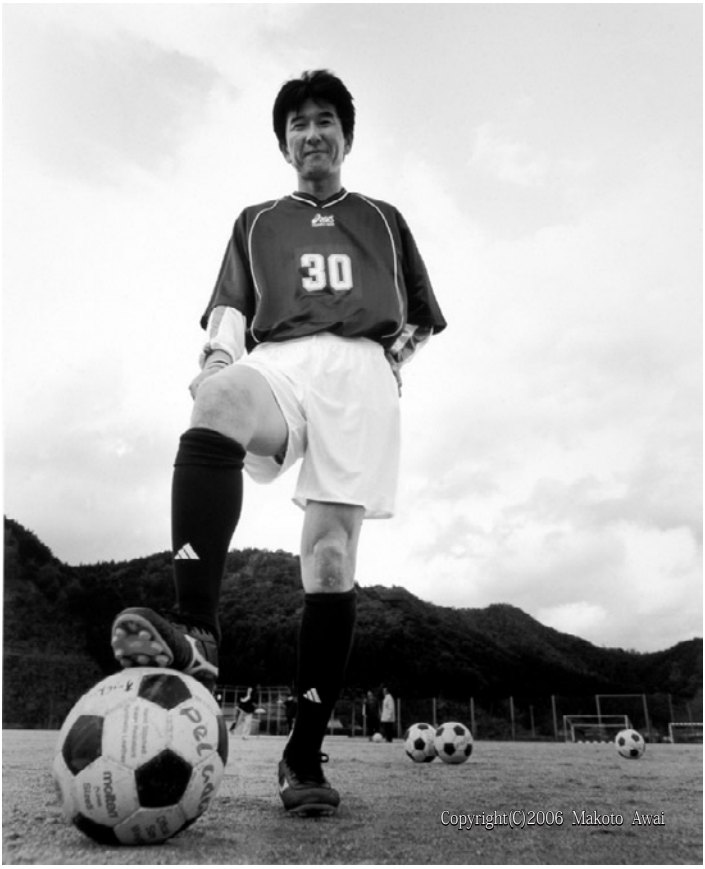
昭和４０年１０月２９日生

建設業

東京の建築現場で、鳶職として多くの建築にかかわってきた。今年１８年間過ごした東京を引き払い故郷に戻ってきた。

本田　瑞恵
昭和４０年６月１６日生
フリーアナウンサー

熊本に住み、大分と熊本でラジオ番組やイベントの司会などの仕事をしている。生後４ヵ月の娘を抱え、週のうち３日仕事で４日子育ての毎日。

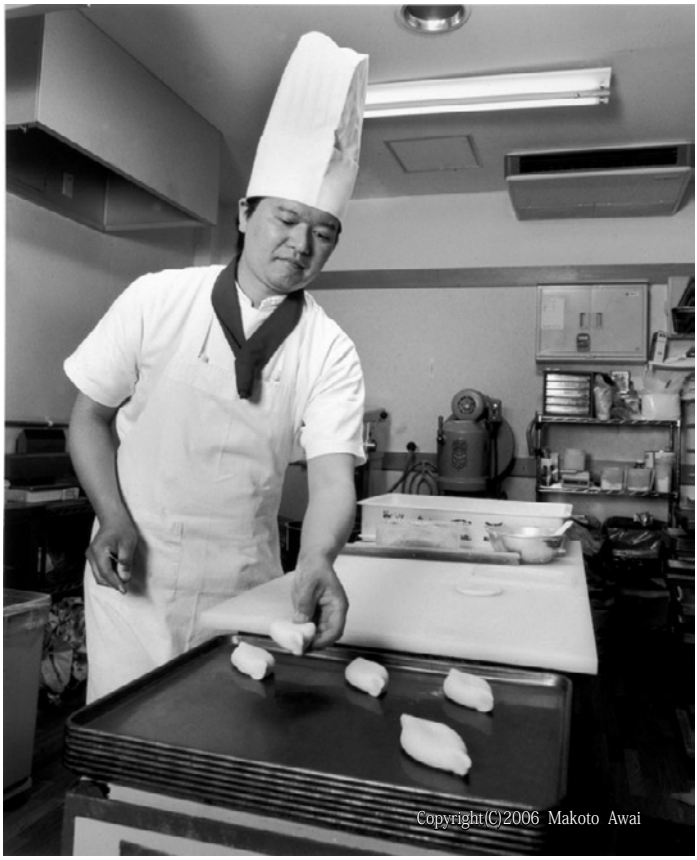


田西　久光

昭和４０年１月８日生

港湾運輸業

今年から４０歳以上のシニアサッカーチームに入った。２７年のサッカー歴があっても、このチームでは一番の若手選手。



竹田　純一

昭和４０年１０月１日生

パン工房「トムソーヤ」経営

時間を見つけてギターを弾くのが楽しみ。バンド仲間と週に一度は集まって練習をしている。

和田　正数
昭和４０年２月２日生
「和田商店」２代目

２２歳から魚市場に顔を出し、３０歳で魚の買い付けを任された。夜明け前の魚市場のせりから１日が始まる。

佐藤　眞由美
昭和４０年８月２４日生
看護師

幼稚園から中学卒業までピアノを習っていたので、ピアノの先生になりたかった。休日の楽しみは、愛車のフェアレディＺで温泉を回る事。

黒木　和彦
昭和４０年７月１６日生
㈱保田屋代表

長年続いた酒屋の５代目。店は年中無休、商工会議所の仕事も多く、ゆっくり休んだことがない。

川野　公輝
昭和４０年９月１６日生
「川野モータース」代表

家業を継ぐ事は自然と頭の中にあった。家で働き始めて１５年。父親の後を継いで２代目になった。

林　孝明

昭和４０年９月９日生

「DESIGN OFFICE JOG」代表

昔から、絵を描く事を仕事にできたらいいなと考えて、この世界に入った。独立して１０年。仕事も軌道に乗った。

野々下　隆二

昭和４０年１０月２０日生

「西町野々下」店主

２０歳で料理人を志し、独立して７年半。
今年、店を移転し新装開店した。

市成　好
昭和４０年４月１５日生
大分交響楽団団員

しばらく楽器から遠ざかっていたが、１０数年のブランクを経て２０００年に楽団に入団。週末の練習日には思いっきり演奏する。

鉄山　宗始

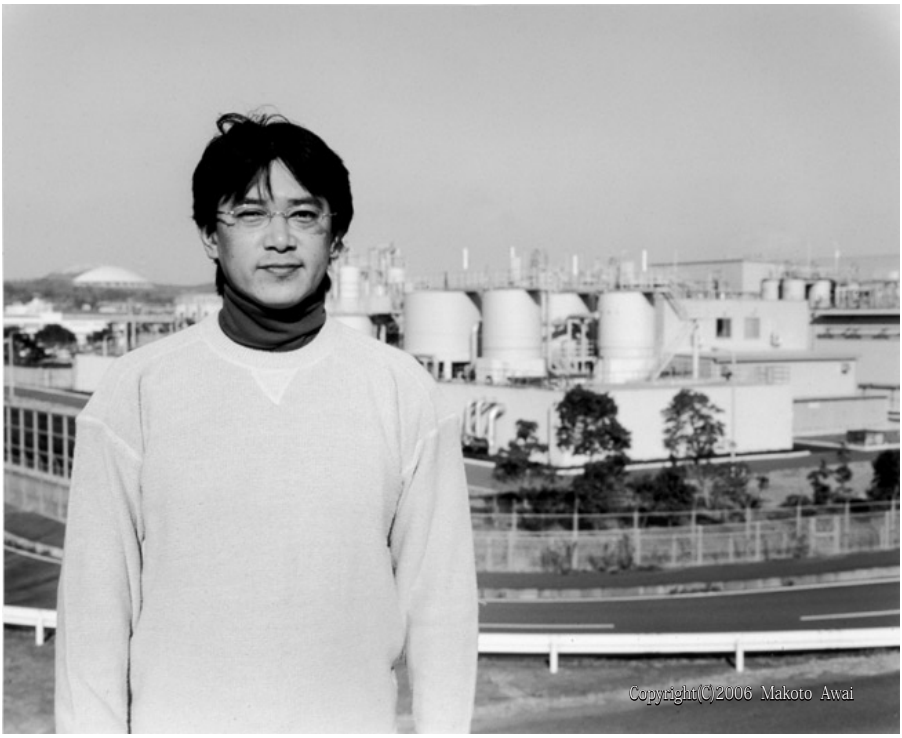
昭和４０年８月８日生

森林保全業

１９歳から山に入って森林の保全や伐採をしている。やりがいのある仕事だが危険も多く、先日も斜面から落ちて怪我をした。自分の山の木でログハウスを作るのが楽しみ。

若杉　典生
昭和４０年１２月１３日生
広告代理店勤務

１年間に１０日も休んでいないというほど忙しい毎日を送っている。今までにも大きな仕事をしたが、さらに大きな仕事に次々と挑戦したい。



香嶋　弘喜

昭和４０年４月１２日生

東芝大分工場勤務

４０歳になった今年から、会社の仲間とバレーボールを始めた。高校の部活動以来、久し振りにボールを触っている。

山田　耕一
昭和４０年6月１７日生
「カメラのヨシヒロ大分店」店長

グラフィックデザイナーやバンドマンなどの顔をもつカメラ店店長。この商店街で働いて１５年、今後の目標はバイクの免許を取ってハーレーを買う事。

高瀬　由美子

昭和４０年９月７日生

主婦

３男を幼稚園に送り出した後、昼間は実家の製材所を手伝う。中学から始めたバスケットボールは、今でもずっと続けている。

渡辺　義将

昭和４０年９月１９日生

大学教員

医者の息子として自然に医者を志した。医者としての仕事をしていくうちに、研究者の道に進もうと決断。現在は大学の研究室で薬理学の研究をしている。

Copyright(C)2006 Makoto Awai

阿部　芳記
昭和４０年７月１３日生
(有) 石松堂社長

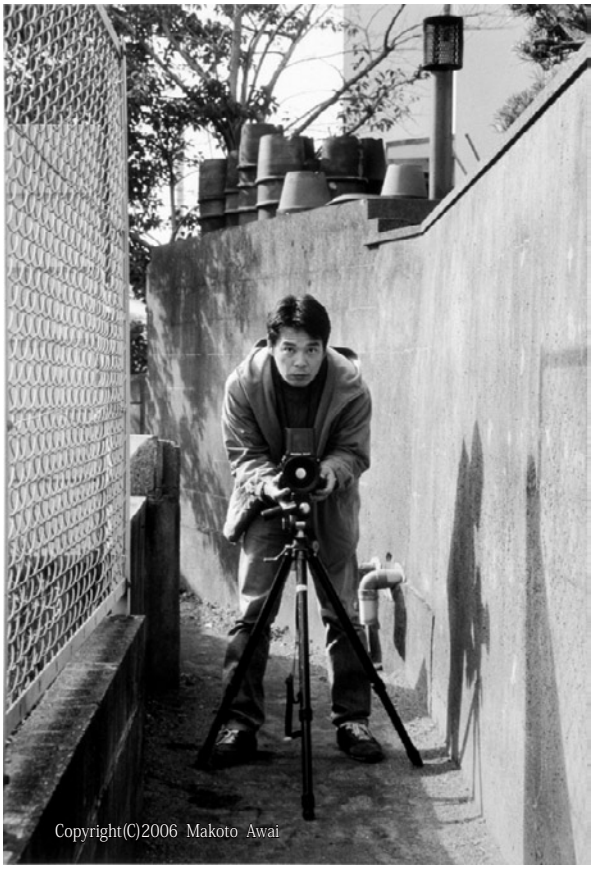
８才から始めた剣道は７段になった。今以上にバリバリ働いて、店をもっと盛り上げていきたい。

清家　半次
昭和４０年１０月２８日生
住宅設備業

子どもの頃から野球選手になりたかった。友人と作った野球チームは今年で１６年目になる。チームでは不動の３番打者。

河野　晋一郎
昭和４０年１１月５日生
警察官

大学生の時に警察官になる事を決め警察官になって１８年が経つ。中学生のときから始めた柔道は５段の腕前。



淡居　誠

昭和４０年６月１７日生

カメラマン

おわりに。

全く個人的な思い付きから動きだした撮影は
３９通りの生き方を見せてもらいながら終了しました。

初めて会った人
２０年ぶりに再会した人
いつものように会っている人

同じ時間の流れの中で、それぞれがたどり着いた「今」の姿に、元気をもらったり考えさせられたり、時には驚かされたりもしました。

レンズを向けられ、少し緊張しながらも快く撮影に応じてくれた３９人の生き方を写真で切り取ったつもりだけれど、うまく切り取れたのかどうかは分かりません。
まさに働き盛りの人ばかりで、時間的に余裕のない事も多く、無理を言って撮影をやり直した事もありました。

今回の撮影は、カメラを間に置いてみんなと「にらめっこ」をしていたような物かもしれません。

３９人を見てきたつもりが、実は３９人に見られていた。
撮影が終わった今になって、そんな風に思っています。
一体この人たちに、今の僕はどんな風に見えたのだろう。
尋ねてみたい気もするけれど、ちょっと怖い。

僕が元気をもらったように、少しでも何かを返せていたらいいのだけれど。

淡居　誠
昭和４０年６月１７日生
カメラマン

【著者】　淡居　誠（あわい　まこと）

【連絡先】
佐伯市新女島区２０班
ＴＥＬ：0972-22-8293
Mail to　：　makoto_awai@yahoo.co.jp

１９６５　大分県佐伯市生まれ
１９８５　山田実氏に師事
１９９０　淡居写真事務所設立
１９９７　個展「その場所の記憶」開催
２００２　「カメラマン３１人の視線」展　出品
２００３　「Oita Today」写真展　出品
２００６　個展「四十×４０×FORTY」開催

オオイタデジタルブック

オオイタデジタルブックは、大分合同新聞社と学校法人別府大学が、大分の文化振興の一助となることを願って立ち上げたインターネット活用プロジェクト「NAN-NAN（なんなん）」の一環です。NAN-NAN では、大分の文化と歴史を伝承していくうえで重要な、さまざまな文書や資料をデジタル化して公開します。そして、読者からの指摘・追加情報を受けながら逐次、改訂して充実発展を図っていきたいと願っています。情報があれば、ぜひ NAN-NAN 事務局にお寄せください。

NAN-NAN では、この「四十 ４０ FORTY」以外にもデジタルブック等をホームページで公開しています。インターネットに接続のうえ下のボタンをクリックすると、ホームページが立ち上がります。まずは、クリック！！！

大分合同新聞社　NAN?NAN　別府大学

昭和四十年生まれの４０人の４０歳
四十 ４０ FORTY
２００６年５月１日　初版発行
著者　淡居　誠
発行　ＮＡＮ－ＮＡＮ事務局

〒８７０-８６０５
大分市府内町３-９-１５
大分合同新聞社　総合企画室内
お問い合わせ・情報提供はこちらからも→ クリック

本著作物は著作権法によって保護されており、
著作者に許可無く転載・改変・販売することを禁じます。

BACK　TOP